

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	20156
課題名	心臓血管外科領域における低侵襲手術をうける高齢患者の術中体温と術後せん妄の関連
研究期間	倫理委員会承認後 ～2022年3月31日
研究の対象	2014年10月～2020年12月31日までに当院で経カテーテル大動脈弁植え込み術、または胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術、または腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術を受けられた65歳以上の患者さん
利用する試料・情報の種類	<p>■ 診療情報（詳細：手術時間、術中出血量、麻酔時間、動脈血酸素飽和度、ヘモグロビン値、手術室退室時の中枢温（膀胱温）と末梢温（手掌温）、年齢、性別、肥満度、脳疾患の既往の有無、せん妄スクリーニングツールによる術後せん妄評価 等）</p> <p><input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/> 血液</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ ）</p>
研究の意義、目的	術後せん妄は、手術後に幻覚や妄想、不穏・興奮といった精神症状を伴う手術を契機に発症する一過性の意識障害で、全身麻酔や手術時間の長さ、開胸・開腹の術式など身体への負担が大きく、年齢が高いほど発症しやすいことがわかっています。開胸や開腹をして手術を行う心臓血管外科手術は、術後せん妄を発症しやすいといわれています。しかし、近年、開胸や開腹をしないカテーテル治療が増加しており、身体への負担が少ない手術のため、高齢の患者さんも少なくありません。手術中は体温が下がりやすく、手術中の低体温が術後の身体的合併症の発症率を高めることは明らかになっています。しかし、術後せん妄との関連を調べた報告は少なく、今後、カテーテル治療を受ける高齢の患者さんの増加が予測される中、術中体温と術後せん妄との関連を調べることで、術後せん妄発症を予防する効果的な手術中の体温管理の検討につなげることができます。
研究の方法	手術終了後に手術室を退室する直前の体温と術後のせん妄の有無に加えて、手術時間や麻酔時間など術後せん妄と関連すると考えられる情報を手術記録や電子カルテから調べ比較検討します。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先

研究責任者：田中 誠子

所 属：〒078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1-1

旭川医科大学大学院医学系研究科修士課程 看護学専攻

旭川医科大学病院 看護部 手術部

電話番号：0166-69-3501(直通)